

新 市 町

いわさ 岩瀬町



大和田町長

昭和30年3月31日には旧岩瀬町と北那珂、東那珂の両村が合併して、今や面積86.83平方キロ、人口24,365人(男11,747、女12,618)、世帯数4,381を有する(昭和32年11月毎月人口)新町として新市町村建設計画や新農村建設計画のもとに全町民の福祉増進と平和で明るい町作りのために力強い足跡を示している。

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数2,932、農家人口18,010人(男8,646、女9,364)、耕地面積2,702町(田1,446町畑1,223町、果樹園5町、茶園2町、桑園21町)に達し、なかでも大豆227町、たばこ216町、さつまいも151町、らつかせい73町、あづき45町などが目立っている。(昭和32年8月夏期調査)

次に畜産面では、乳牛121頭、役牛554頭、馬928頭、めん羊83頭、山羊203頭、豚486頭、兎144頭、にわとり11,318羽を有し、次第に農業の有畜化が進んできた。またおもな農機具の普及状況を見ると、電動機377台、石油発動機705台、動力耕うん機15台、脱穀機977台、足踏1,382台、動力すり機455台、製粉機160台、精米機663台、精麦機32台、動力噴霧機10台、人力78台、動力製糞機204台、足踏940台、畜力カルベーター160台、畜力砕土機297台、畜力すき1,483台にのぼり、(昭和32年2月冬期調査)農業の機械化も年を追って進んでいる。林業面では、山林3,483町、原野177町を有し、用材8,853石薪409,620束、木炭17,280俵、竹材1,890束を生産して、たばこの508トン(1億5,800万円)とともに農家の大きな収入源となっている。また養蚕農家は134戸、年間取高4,028貫である。町当局としても用排水路や沼地の改修整備をはじめ、作物品種の改良、農業の奨励、針葉樹への切換え、水源の確保、蔬菜組合の育成による市場の拡大などを次々に実施して農村振興計画を着実に進めている。特に33年度は病虫害防除の一策として全農地に誘蛾灯(1反歩200円負担、不足町費負担)を設置する由。

次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店26、従業員135名、年間販売額1億6,146万円、常用労働者のいない個人商店293、従業員557名、6月中販売額1,578万円で、衣服、洋品、雑貨、食料品小売業が大部分である。また工場数は40、従業員445名、年間製造出荷額1億4,479万円に過ぎず、土瓦製造が目立っている。さらに花崗岩の採掘が若干行われ、年間25,000切を生産している。

3. 教育文化

ここには小学校5(分6)、中学校3あつて、小学児童数2,865名(分747)、中学生徒数1,686名(男858、女828)を有し、学校校舎および施設の新築、改善と教育内容の

4. 財 政

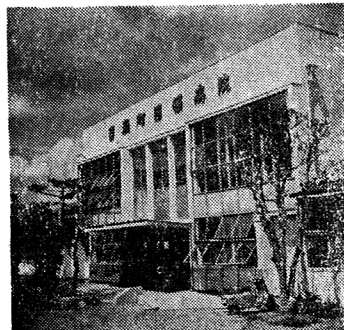
昭和32年度一般会計歳入歳出当初予算

(単位円)

歳 入	地 方 交 付 税	公 営 企 業 及 び 財 産 収 入 税	公 用 料 及 び 手 数 料	国 庫 補 助 金	県 支 出 金	寄 付 金	繰 入 金	繰 越 金	雑 収 入	町 債	合
37,710,490	16,436,000	3,000	850,000	5,081,000	1,160,200	123,000	2,000	693,717	137,000	5,000,000	67,160,407
歳 出	議 会 費	役 場 費	警 察 消 防 費	土 木 費	教 育 費	社 会 及 び 保 健 産 業 財 産 費	統 計 調 査 費	選 挙 費	公 債 費	支 出	予 備 費
1,940,690	17,517,720	2,225,865	2,861,820	11,741,470	4,593,550	1,517,680	8,129,650	3,038,160	101,585	3,915,277	8,952,500

充実を努めている。また町として住民の健康第一主義をモットーに、30年9月には国民健康保険組合の全町実施を実現し、医療施設の拡充と住民の医療福祉を増進している。特に住民の利用率は130%に達し、医療費の増大にかんがみ、近代的な総合病院を32年6月に開設したが、これは総建坪470坪余、ベット数60を有し、総工費も2,120万円に達し、県内唯一の国保病院として今後の発展が期待されている。さらに町としても汚物処理組合の成立、野菜市場、保育所(定員60名)の運営、じんあい場隔離病舎の看護婦委託養成所、失対事業(定員月15名)などの開設をそれぞれ企画し、住民の福利厚生事業を重点的に行っていることも注目される。土木事業も大道路の新設(750万円)をはじめ、国、県道の補修による新設場を中心とした主要道路、通学兼産業道路の整備促進して住民の福利協調と生活安定を計っている由。防団も統合強化され、自動車ポンプ5台、手引ガンポンプ18台、陸用2台を有し、貯水槽の整備、部落の開設、団員の資質向上を計り、優秀な実績を取った。また青年婦人も統合され、体育スポーツ、生活改善、講習会の開催などにめざましい活躍を続けている由。さらに公衆電話設置(現在3)をはじめ、全国でも珍しい農村電話の設置を計画して昭和33年度には4地区へ実施する由。

次に名所旧蹟としては、古代の歌人紀貫之が歌った桜川の「磯部の桜」は樹数600本余、樹高400年余え、昔から観光客も多く、また国宝、重要文化財を有する曙光山月山寺は行基作の薬師如来を本尊として、また富山観音は天平7年聖武天皇が国家安泰を祈念した際の丈1丈6尺、11面観世音(行基作)を本尊とし、仁王門三重塔がある。高峰山頂にはロボット屋敷がある自動測候所があつて上野の沼、台の原とともにキングやきのこ狩にも好適の地である。



(国保病院)

大和田町長の抱負

1. 主裁栽培を中心とした農業経営へ畜産、林業を取り入れて経営の合理化と振興を計るとともに土産を徹底したい。
2. 教育文化施設を拡充強化し、教材の充実を計ること。
3. 町民の保健医療の向上と厚生施設の統合強化を図ること。
4. 産業、通学道路の整備を計って、町民の雇和と安定に寄与すること。
5. 農村電話網の整備拡充によって、町民との連絡を円滑にすること。
5. 工場を誘致して、その振興と経済力の増強に努めること。

の 横 顔

1. 沿革

千代田村



(役場庁舎)

この村は新治郡の東部に位し、水戸から常磐線で1時間余、東は石岡市、西は新治村に南は土浦市と出島村、北は八郷町にそれぞれ隣接し、地勢はおおむね平坦で西北は筑波山系に連なつて森林にも恵まれ、恋瀬川や天の川の流域に昔から開けた肥沃な農村地帯である。この地方は明治維新前から新治郡に属し、慶長7年本堂伊勢守義親が羽村から領替を命ぜられ佐谷の佐谷城や中志築の志築城に本居を構え、佐谷下に属していた。そして明治4年7月の廃藩置縣で、まず志築県の管轄であつたが、明治5年新治郡が成立すると、それぞれ編入されたのである。昭和3年2月20日には他町村に先がけて、志築、七会との合併して、その名もゆかしい千代田村が誕生し、今3,000平方軒、人口12,165人(男5,955、女6,210)、世帯2,087を有し、全村民の融和をモットーに明るく、よい平和郷の建設にたゆまぬ努力を続けており、発展が期待されている。

産 業

農業面を見ると、農家戸数1,714、農家人口10,295(男5,085、女5,210)、耕地面積2,104町(田791町、畑1,313町)、果樹園388町、桑園97町、その他29町)に達しているが、なかでも大豆79町、さつまいも182町、ちんごう1町、たばこ63町などが目立っている。(昭和32年国勢調査)次に畜産面を見ると、乳牛122頭、役牛117頭、馬117頭、めん羊77頭、山羊287頭、豚919頭、鶏11,266羽に達しているが、(昭和32年国勢調査)最近酪農経営の奨励と相まつて、養蚕が普及し、組合活動も活発で共同出荷を行っている。また農機具の普及状況を見ると、電動機235台、石臼313台、ハンドトラクター3台、動力耕うん機11台、脱穀機509台、足踏707台、動力糶すり機230台、籾すり機58台、精米(麦)176台、噴霧機(人、動力用)1台、動力製餅機112台、足踏841台、畜力カルチベーター23台、碎土機428台、すき712台にのぼり、(昭和32年冬期農業調査)農業の機械化が次第に進んでいる。この村も32年度から新市町村建設指定村となり、村道の整備をはじめ、土地の交換分合(100町)を行っているが、たばこ、養蚕、くりは現金収入の少ない方としては、大きな収入源をなしている。特にくりは昔から盛んで年産15万貫にのぼり、本県の生産額の10%を超えている。なしも年産35万貫で、大部分は専らであり、また、とまとも最近栽培が盛んとなり、7万貫で将来の発展が期待される。さらに白菜は80万貫、だいこんは20万貫の年産をあげ、蔬菜組合の育成と栽培技術の向上によつて、本県唯一の蔬菜の特産となることだろう。また筑波山麓に連る森林は1,335町にのぼり、まつひやしき、すぎ、なら、くぬぎなど用材1,000石、木炭、7.0万石、薪60,000束を毎年生産しているが、林道の開設、林業にも努力している。ここには新光開拓団(35戸)があるが、多角的な経営に成功し1戸当り2町歩を耕作している。

4. 財 政

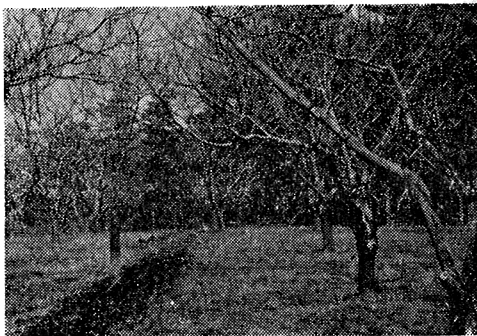
昭和32年度一般会計歳入歳出予算 (昭和32年9月) (単位円)

村 税	地 方 交付税	公営企業及 び財産収入	使用料及 手数料	国 庫 支出金	県 出 金	寄 付 金	繰 入 金	繰 越 金	雑 収 入	村 債	合 計			
517,000	14,323,000	54,000	160,000	1,422,500	1,021,000	1,325,000	100	300,000	175,110	100	39,297,710			
農 会 費	役 場 費	警 察 消費費	土 木 費	教 育 費	社 会 及 び 労 保 施 設 費	健 康 衛生費	業 務 経 済 費	統 計 調 査 費	財 産 費	選 挙 費	公 債 費	諸 支 出	予 備 費	合 計
1,504,300	9,821,510	1,709,000	3,872,500	7,088,100	337,000	1,302,000	4,225,635	209,500	635,600	241,830	1,248,220	6,803,150	300,000	39,297,710

る由。次に商工業面を見ると、まず法人および常用労働者を有する個人商店8、従業員38名、年間販売額9,534万円常用労働者のいない個人商店74、従業員148名、6月中販売額484万円で、(昭和31年商業調査)工場数9、従業員62名、年間製造出荷額3,902万円に過ぎない。(昭和31年12月工業調査)

3. 教育文化

ここには小学校5、中学校1あつて、小学児童1,703名(男871、女832)、中学生徒838名(男416、女422)に達しているが、昭和31年から3カ年計画で中学校の統合整備に着手し、建坪800坪、敷地13,000坪、総工費3,000万円のモダンな木造校舎がほとんど完成した。また青年婦人団体の統合もすでに終り、公民館活動も33年度から社会教育や生活改善、環境衛生を中心として本格的に乗り出すことになっている。この村では農事研究グループの活動が非常に盛んで、農協の指導により農業技術の改善研究に努力して大きな成果を収め、農家生活の向上にも寄与している。国民健康保険組合は、各地区とも合併前から実施しており、総予算803万円余、加入世帯は1,903で全村の87%を占め農村としては保険衛生思想が非常に進んでいる。また消防団は合併直後に再編成し、23分団のほとんどが三輪車ポンプと可搬式ガソリンポンプに切替えて貯水槽をはじめ火の見、団服などの整備に努め特に団服などは全額村費で購入したことは珍しいと思う。この名所旧蹟としては、八幡太郎義家にゆかりの深い4万騎塚、志築城跡や弘法大師と関係ある閑居山、五輪堂二木天神などがあるに過ぎない。またくり栽培の權威者として全国に知られる兵藤直彦翁は今なお栽培の研究指導に当たっている。



(くり畑)

川俣村長の抱負

1. 行政機構の合理化、事務の簡素化によつて経費の節減を計り、常に職員の資質の向上に努めて、村民へのサービス精神を高揚すること。
2. 中学校の統合強化も完了したので、その施設教材の充実にも努めること。
3. 酪農、果樹園芸の取入れを奨励するとともに畑地かんがいを実施して、農業生産力の増強を期すること。
4. 神立駅附近の広大な平地を利用して工場、住宅の誘致を促進したい。
5. 合併後の基礎的事業はほとんど完了したので、その肉づけというか、新しい農村振興計画を着実に実行して住民所得の増加と生活水準の向上を計りたい。